



卵茶会+コントラバス独奏：赤松美幸 2012/2/12



日干レンガをつくる 2013/10/31



床を掘って地面を椅子にする 2013/12/12



雨漏り対策とロフトを兼ねた内屋根完成 2020/1/23



折れた大木の枝で階段をつくる 2020/11/19

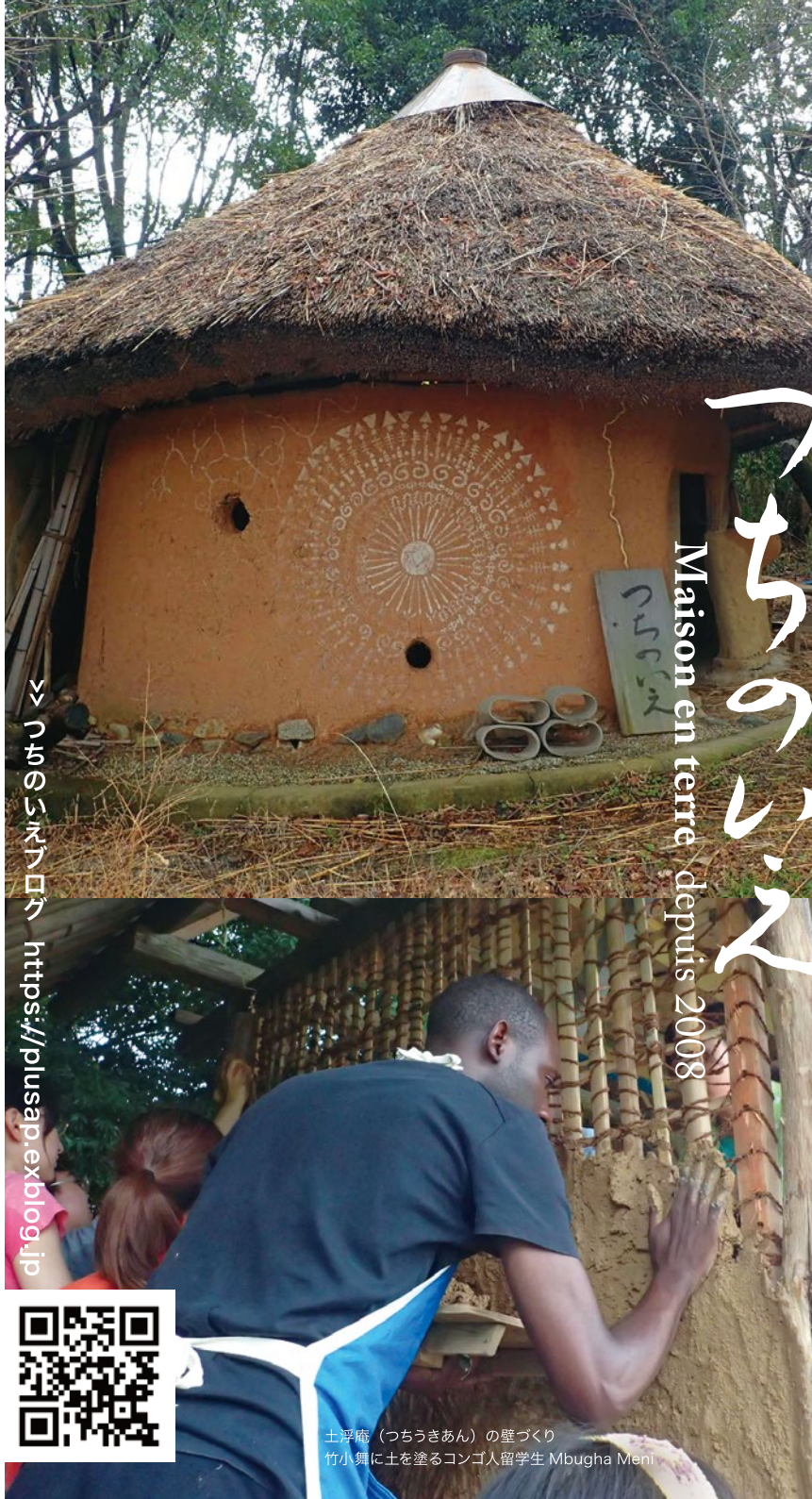


かまどをつくり、憩う 2021/1/7



第二のつちのいえとしての「土浮庵（つちうきあん）」ロフトからの眺めは抜群。台風にも耐えた。構想と施工：2016～2018 完成：2018/7/19

*つちのいえは 2008 年夏から有志のアートプロジェクトとして始まり、2011 年度から美術学部の「テーマ演習」として行われています。連絡先：長谷川直人（陶磁器専攻教授）hasegawa@kcua.ac.jp



Maison en terre depuis 2008

つちのいえ

https://plusap.exblog.jp



土浮庵（つちうきあん）の壁づくり
竹小舞に土を塗るコンゴ人留学生 Mbugha Meni

「つちのいえ」は、建築的空間を手づくりすることを通して、美術・建築領域における自然素材の可能性、とりわけ土のもつ創造的可能性を探求する実験的プロジェクトです。

土は、焼いたり汚染したりしない限り、無限に再生利用できます。大地そのものを形成する土は、人類最古の造形素材として、化粧から絵画、彫刻、染織、陶芸、さらに住居にいたるあらゆる造形領域で使用されてきました。今日でも世界の人口の三分の一以上、開発途上国では二分の一以上が、土の空間に住んでいます。

かつてひとは、身の回りの土を使って住まいをかたちづくり、壊れてもまた土を再利用して新たな住まいへと転生させました。土は、市場で購入したりする必要のないオープン・ソースであり、それらを使って自らの生きる環境を形成することは、オープン・テクノロジーとして、それぞれの地域で世代を通じて共有されていました。

しかし、今日、日本のような高度に工業化された国々では、建築材料としての土は、工業製品である建材に追いやられ、左官のような優れた伝統技術も、分業化された高度な産業技術によって危機に瀕しています。効率を至上とするグローバル市場経済と巨大テクノロジーに支配されるなか、美術であれ建築であれ、材料はすべて工業製品としてマーケットを通じて購入され、それと平行して、人々の身体から天地自然とつきあう術が失われてきました。

「つちのいえ」で重視するのは、第一に、材料を「買う」のではなく、身近な地域環境の中からできるだけ自前で調達すること。それにはお金に代わる自然とのつきあい、人々とのネットワーク、労働が不可欠です。手間はかかりますが、その迂回を通して自然素材と向き合ってきた人類のものづくりの歴史を体感します。

第二に、制作プロセスを、さまざまな分野の人の感性・想像力・技術の交流の場とすること。左官や茅葺など職人の方から伝統技術とそこに潜む知恵を学び、現代の芸術的想像力と織り合わせて、完成予想図のない絵を描くように、作業を進めます。

「つちのいえ」がめざしているのは、太古以来培われてきた人類の多様な生存の技術と知恵をとらえなおし、人間と人間、人間と自然を創造的に結びつける芸術本来の役割を再考する、楽しい場（トポス）になることです。



西京区大枝西長町 2006年撮影



京都縦貫道は建設当時、京都第二外環状道路(にそと)と言われた。

つちの転生

人知を超えた自然への敬意
伝統の技と知恵に学ぶ
真の伝統は実験的だった
材料は極力買わない



敷地開拓。円形基壇を掘り起こす 2009/4/23

土・ワラ・竹など、材料は地域から直接調達する。



人と人、知恵と技術のネットワークがあれば、材料は買わないですむ。信頼と感謝の気持ちが支え。

美しい土塀があった

沓掛キャンパスのすぐ近くに、江戸時代から続く大藪家の美しい土塀があった。それが高速道路建設のために取り壊されることになった。

峠の茶屋



大藪家土塀が取り壊される前に、土塀の延長を提案する「峠の茶屋」を、大藪家の敷地内に地元の廃材や土でつくる。休憩所、地蔵盆のときの映画会など、コミュニティスペースとして使われた。2008/8/21~2010/4/20



峠の茶屋・お披露目茶会(2009/4/19) 地域の方がたくさん来て下さる。1年後、道路工事に伴い撤収、材料はすべて回収して再利用。



大藪家の土塀を倒して土を救う。土約12トン、土嚢は400袋を越える。2010/5/11~5/29

土を救え!



400袋以上の土嚢を運び終えてぐったり。

アクアカフェ全ドキュメント <https://cafeakcua.exblog.jp/>

撤収後、全ての土を持ち帰って再利用

脱資本主義
楽しさが真の貨幣



版築ワークショップ(中央の壁) 2009/7/23



曲がり木でベンチを兼ねた柱を立てる 2009/10/18



竹で屋根の小屋組をつくる 2010/10/14



斎藤親方の指導で屋根にカヤを葺く 2012/8/27



久住章氏の左官ワークショップ 2011/7/14



土ブロックを積んで壁をつくる 2011/12/8

自由な発想と妄想は大切
美術以前・美術以後
人類数千年の歴史をワープ
異世界への抜け穴

土12トンと6mの竹80本を岡崎公園に運び、京都国立近代美術館の前庭に、水を飲む空間「アクアカフェ」をつくる。Aqua(水)と@KCUA(アクア)は掛け詞。モデルは、琵琶湖疏水開削の決め手となった第一堅坑。近代京都の垂直の産道。

京都芸大創立130周年協賛「生存のエッセンス / Trouble in Paradise」展 2010/7/9~8/22 京都国立近代美術館

